

# 褒章

12・26ページ



## 県体育協会会長 山下さん受章の喜び

春の褒章が発表され、県内からは県体育協会会長の山下泰裕さん（紫綬褒章）をはじめ33人が受章した。山下さんは「ありがとうございます」と喜びを語った。

「正直驚きました。選手時代の実績なのか、引退後の活動を評価していただいたのか分からなかった。でも、全部含めてとお聞きして。ありがたいです」。二十七日、国際柔道連盟の理事会が行われた中国・北京から帰国したばかりの山下泰裕さん(49)は、紫綬褒章受賞の喜びをそう語った。

紫綬褒章受賞者特集は12面に

「世界のヤマシタ」として知られる。東海大相模高から東海大に進学し、一九八四年のロサンゼルス五輪・柔道男子無差別級で金メダルを獲

得。選手引退後は、全日本柔道連盟理事、国際柔道連盟理事などに就任。一年のうち百日は海外を駆け回る。

世界で活躍を続ける一に就任した。「神奈川から世界へ羽ばたく選手を育てよう」と、発展のため、精力的に動き回る。昨年四月、知事以外に初めて具体育協会会長

## 「さらなる柔道普及を」

紫綬褒章  
山下さん

「熊本から神奈川に来て三十二年。選手としては県内で一番の成績を収めているかもしれないが、それ以外に関しては何も無い。周りの方に支えてもらいながらやっています」。そう笑顔を浮かべる。

六月で五十歳。選手、指導者の時代を終え、いまを「第三の人生」ととらえる。「大切なことはいまとこれから。過去の実績など何の意味も持たない。柔道のさらなる普及、そして柔道を通して人間形成に力を注いでいきたい」。目を輝かせながら語った。



「選手時代の実績と、引退後の活動を両方とも評価していただいた」と喜びを語る山下泰裕さん  
＝平塚市の東海大(立石 祐志写す)

# 勲章また一つ 15・27



春の褒章受章者749人と11団体が発表された。紫綬褒章にはロサンゼルス五輪の金メダリスト、山下泰裕さん(49)の顔も。「相手を思いやる柔道の精神を世界に伝えたい」

全日本柔道連盟理事

山下 泰裕さん(49)

紫綬褒章

不世出の柔道家。東海大、全日本男子の監督として00年シドニー五輪金メダリストの井上康生選手らを育てた。自ら「第三の人生」と呼ぶ現在は国際柔道連盟教育・



## 国際交流に奔走

コーチング理事として、柔道の普及に取り組み。受章に「今の活動も評価していただいたと思う」と顔をほころばせた。

全日本選手権9連覇、公式戦203連勝などの大記録の持ち主。84年ロサンゼルス五輪無差別級では右足を負傷しながら優勝し、国民栄誉賞を受けた。引退後も「恵まれた人生だった。『周りの人に恩返しを』と思って動くと、さらに周りから支えられた」と振り返る。

発展途上国に柔道着を贈るなどの国際交流活動のため、年間100日以上は海外に。「相手を思いやる柔道の精神を世界に伝えた

来住哲司撮影

い」と願う。

【来住哲司】